

令和4年度 上婦負ケーブルテレビ 放送番組審議会

1. 開催日時

2023年2月15日(水) 午後6時より

2. 開催場所

富山市婦中町羽根 827-1 上婦負ケーブルテレビ株式会社

3. 出席委員 (敬称略)

委員長

山口吉弘 (速星地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

委員

山田政夫 (古里自治振興会 会長)

原徳久 (鵜坂地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

柞山明 (宮川地区自治振興会 会長)

三輪幹夫 (婦中熊野地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

坂川智幸 (富山市朝日公民館主事)

平野利彦 (音川地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

荒井聡司 (神保地区ふるさとづくり推進協議会 会長)

山田憲彰 (山田地域自治会 会長)

上婦負ケーブルテレビ出席者

竹内茂 代表取締役社長

井林孝仁 取締役 営業・工事技術部部長

小林拓郎 営業・制作部次長

井城将志 営業・制作部課長

4. 議題

コミュニティ放送番組について

5. 主な意見

- ・KCT 週刊トピックスでイベントの告知を3度行った結果、イベント当日は、校区外からも多くの方が訪れた。他校区の皆様もコミュニティチャンネルをより活用してもらいたい。
- ・ケーブルテレビの活用方法としては、一昨年コロナの影響で長寿会が実施できない中でもリモートで楽しんでいただければと「お家で敬老会」を共同で企画し、放送した。
- ・男女共同参画時代の為、番組審議の場に女性の参加も促して欲しい。
- ・各地区の公民館単位で、年間行事情報をケーブルテレビに集約してはどうだろうか。そうする事で、地区内の行事イベントを満遍なく取材収録ができるのではないかな。
- ・地域をどういった切り口で見るか、どこまで耕すかといった判断の中で色々な番組を制作してもらい嬉しく思う。

- ・地域の出来事をデジタルアーカイブとして残せる価値は、非常にありがたい。
- ・直近で言うと「左義長」の取材をしていただき嬉しかった。地域公民館などで周知して広めていきたい。今後も地域のイベントを積極的に取り上げてほしい。
- ・熊野地区では現在、大規模な護岸工事を行っているが、その意義を取り上げるなど「地域の防災」に関する情報をニュース等で紹介してほしい。
- ・神保地区が 80 周年を迎え、それに伴う様々なイベントを催しその全てを収録放送してくれて助かった。またその際、カメラマンが子供たちにインタビューをしてくれたことで、現在の子供たちの気持ちを映像として保存することが出来た。また、そのコメントからは企画したイベントのコンセプトが子供たちに浸透していたように感じる事が出来、主催者として非常に嬉しかった。そしてその模様が今後、アーカイブとしてデジタルで残せることはとても重要である。
- ・ローカルらしさを今後も大事にして欲しい。近隣住民が画面に出てくる事がケーブルテレビのコミュニティチャンネル最大の魅力を感じる。
- ・女性の意見を始めとする幅広い年齢層の意見を、今後も大事にして欲しい。
- ・娘がボランティアで参加しているため「ガイアに学ぶ」を楽しみにしている。
- ・コロナ禍が治まりつつあり、祭り・獅子舞を撮って流してアーカイブして欲しい。 またその際は、メイキングから撮って欲しい。
- ・学習発表会の放送を見ると「子ども達の活動を見ている保護者」をピックアップする場面があり、感銘を受けた。
- ・地元の一大行事である「曲水の宴」を徐々に実施予定である。どのイベントを行うにしても、その地元に元気が無いといけないので、更に盛り上げていきたい。
- ・地元の一大行事である「売比河鵜飼祭」を今年は、例年に近い形で実施する思いである。鵜坂小学校が 11 月に 150 周年を迎えるが「秋の学習発表会」時に式典を予定している。また、校区の各町内会もイベントをしているので、そこも取材してほしい。
- ・子どもが居なくなると、あまりコミュニティチャンネルを見る機会がなくなった。しかし、ふるさとづくり推進協議会長としてイベントを主催する側となった今は、見るようになった。その際、参加した子供たちの笑顔が見られるのは大変嬉しい事。
- ・音川地区の神明社が 280 周年を迎え、獅子舞を奉納する予定である。新年度は、「防災」や「キャンプ」などのイベントを考えているので今後は、速星地区のように告知も利用させてほしい。
- ・かみねいアワーをよく見ている。EPG の表記を「かみねいアワー①」といった表記方法ではなく「山田地域はたちの集い」といった風に内容を分かり易くしてほしい。
- ・日本の人口の年齢別比率が劇的に変化して「超高齢化社会」となる 2025 年問題が近づいてきている。その問題の一つとして挙げられるのが高齢者の 3 人に 1 人が認知症患者となること。認知症患者の症状は「徘徊」が代表的だが、実は認知症の登録数に比べて「徘徊患者数」は、あまりにも少ない。その背景には他者に発覚する事を恐れる家族が、公表するのを控えている事情がある。このような時代背景を鑑みて、認知症を始めとした病気対策などの情報番組を作っても良いのではないかと思う。

以上